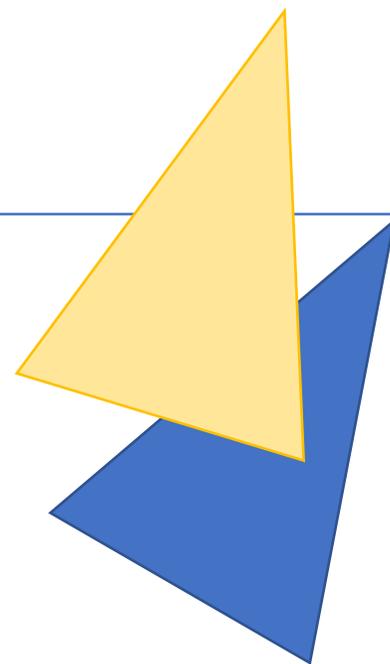


# 現代の子育ての課題

## ～家庭教育支援が必要な理由～

入間市教育委員会  
家庭教育応援通信  
2024年12月



こんにちは こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では  
子育てに必要な情報を皆様にお伝えしていきます。

今回は

子育て支援に関わっている方に向けて  
家庭教育を取り巻く現状と必要な支援について  
お伝えしていきます。



入間市マスコットキャラクター  
「いるティー」

# 家庭教育支援がなぜ必要か

高度経済成長期以前とそれ以後では、地域の人間関係や人々の価値観といったものが大きく変化しました。

その結果、子育てが孤立化しやすい状況となっていて、家庭教育支援が必要になっていると言われます。

どのような点が変わったのか、家庭教育にはどんな支援が必要なのか、子育て支援に携わっている方はもちろん、保護者の方もこのことについて考えてみませんか。

# 高度経済成長期以前の子育て

生産性が低く、家族や地域で支えあうことが当然でした。

- ・ 祖父母（子育て経験者）の同居
- ・ 出入り自由な隣近所

子どもが集団で遊ぶ場があって、自分たちで学んでいました。

- ・ 自然体験
- ・ 人間関係
- ・ 下の子の面倒

地域から外に出ることがないので人間関係が安定していました。

- ・ 皆が同じような暮らし
- ・ 同じような価値観を代々継承

進学率が低く、教育費が今ほどはかかりませんでした。

- ・ 1950年の高校進学率42.5%、大学進学率10%

# 家庭教育における変化

高度動経済成長期以降、子育ては**各家庭の個別の課題**になりました。

地方から都市圏への流入による核家族化→**子育ては親**がする  
家と職場が別、職種も多様化→教えるべき価値観に**親も迷う**  
子ども集団がなくなる→自然体験、人間関係を**親が教える**必要  
消費社会、進学率の上昇→親の**経済的負担増**、労働の**長時間化**  
競争社会→やさしさを教える難しさ

共感や感謝よりも競争が重視される社会で、伝えるべき価値観に迷いながらも、親が各自の責任で家庭教育をしなければいけない時代になったのです。



# 「家庭よもっとしっかりせよ」は間違い

このように現代の親は、社会的に孤立しやすく、また、少子化により子育てを間近で見る機会も減っています。個人の責任で何とかしなさいと言っても無理な状況と言えます。つまり、家庭での子育てを社会が地域で支援することが必要なのです。

- ・子育てで大事なことをどう伝えるか
  - ・子育てについて語り合える場をどうつくるか
- について考えてみましょう。

# ①見守ることの大切さを伝える

1990年代に流行った早期教育では、赤ちゃんには早期から刺激をたくさん与えるべきという考え方が主流でした。

<現代になりわかってきたこと>

赤ちゃんには、外の音、部屋の光、壁、気温などすべてが適度な刺激で、その中で自ら興味を抱き関心を示すものを選択する。

したがって、**親がすべきことは温かく見守ること**

必要に応じて抱っこしたり、外に連れ出したりしながら、子ども自身の主体的な活動を保障することが大事  
ということをお親に理解してもらうことが必要。



## ②具体的な育児のノウハウを身につける

子守りなどの経験があると自然に身につくけれど、そのような経験がないとわからないこともあります。

「あやしてあげて…」 あやす？

「子守唄を歌ってあげて…」 子守唄？

### 子育ての具体的なノウハウを

家庭教育で必要になる具体的なノウハウを提供することが支援になります。例えば、



今日は「イナイ イナイ バー」をやってみましょう！

### ③遊ぶ力、家事能力を高める

子ども集団がなくなり、遊びを親が考える時代ですが、**遊び**は子どもにとって、様々な**感覚を磨く**チャンスです。また、親の仕事を**手伝う**ことによる**家族への帰属感**の獲得も大事です。

ですから、親が遊びの力、家事の力をつけることが子育て支援になります。

例 保育園のお迎えで残って遊ぶ時間をつくる  
料理教室で親のスキルを磨く



## ④発達の見通しを持つ

子育ての経験の少なさは、どの時期に何をするかという発想（発達の見通し）が持ちにくい、ということにつながります。

例えば、母親が男の子の思春期以降のかかわり方を知らないと、女の子と同じように接して性のアイデンティティの形成が困難になる、といったことも起きやすくなったりします。



**子が成長していく道筋のイメージ**を持つことは大事です。

## ⑤父親の子育てへの参加や支援

日本の父親の育児への参加率は、先進国中で非常に低いという結果が出ています。男性の育児休暇の取得率は近年伸びつつはありますが、長時間労働等で何時に帰宅するかは、企業の姿勢に左右されているのが実情です。

**父親が個人の努力でできること**を支援する

- ・妻が夫に望んでいる言葉は何か
- ・家事の分担をしているか

など、父親への働きかけが必要です。

THANK  
YOU



## ⑥ コミュニケーションへの意欲を

親の孤立がストレスを呼び、ときに子どもに向かいます。

→ 親自身が孤立しないようにすることが大事

→ 気軽な たまり場 づくり、子育て 経験者と話す機会

子どもを 預け預かり合う ノウハウの蓄積、などが必要

また、夫婦や親子間のコミュニケーション不全はトラブルに結びつきやすい

→ コミュニケーションを楽しむような力を身につけていく

そのために家族で実践するような取り組みを



## ⑦自分の人生を肯定できる共同体を

子育ては自分の人生の振り返りと再評価の場でもあります。親のルールに乗り、人生を自分で作った実感がない場合、**子育ての難しさ**と自分の人生の**前向きな評価ができない**ことが重なってしまい**不安が増大**してしまう

**親自身が自分を語り、人生全体を肯定するチャンスが豊かにある**ことが大事。語り合い、聴き合う共同体をどう創りだしていくかは、現代に生きる私たちの大きな課題です。



今回のお話は、文部科学省の家庭教育支援関連のページから、白梅学院大学学長の汐見稔幸氏のお話を参考に作成しました。

支援をするときに大事にしたいのは、**どの家庭も子ども**  
**のために一生懸命**で、**その子の一番の専門家は保護者だ**と  
いうことです。

それでも家庭教育が難しくなっている現代では支援は必要です。すべての子どもたちの笑顔のために必要なことは何か、一緒に考えられる社会にしたいですね。

# アンケートへのご協力をお願い

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

<https://forms.gle/E49r57VMG6ivMoDt8>

ありがとうございました

